

# 2015

## 社会・環境レポート

ve  
Earth

**双信電機株式会社**  
SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.

双信パワーテック株式会社

双信デバイス株式会社

立信電子株式会社

双信エレクトロニクスマレーシア

# 事業概要

## 2015 社会・環境レポート

### 目次

#### ■事業概要ほか

会社概要・事業拠点	1
事業領域と関連製品	2
社長メッセージ・コーポレートガバナンス	3
企業行動指針	4

#### ■社会性報告

人間性の尊重、 快適な職場環境の確保	5
地域社会との協調、 社会貢献活動の推進	6

#### ■環境報告

環境マネジメントシステム	7
環境保全活動の概要	8
環境会計	9
物質収支・含有化学物質管理	10
環境負荷低減の取組み	11
省エネ対策事例	12
資源活用の取組み	13
アンケート	14

### 編集方針

このレポートは双信電機グループが、日本ガイシグループの一員として、社会・環境にかかわる取り組みを報告しています。

#### 【対象期間】

2014年4月～2015年3月

#### 【対象範囲】

双信電機株式会社  
双信パワーテック株式会社  
双信デバイス株式会社  
立信電子株式会社  
双信エレクトロニクスマレーシア  
2015年6月発行

## ■会社概要 (2015年3月末現在)

社名：双信電機株式会社  
英文名 SOSHIN ELECTRIC CO.,LTD.  
URL <http://www.soshin.co.jp>

東京本社 〒108-8322  
東京都港区三田3-13-16 三田43MTビル13F  
Tel.03-5730-4500 Fax.03-5730-4504

創業：1938年（昭和13年）12月  
設立：1944年（昭和19年）4月  
資本金：3,806百万円  
従業員数：821名（連結）

## ■事業拠点

### 【国内営業拠点】

東京・営業本部  
大阪営業所 / 名古屋営業所 / 佐久営業所 / 九州営業所

### 【国内製造・技術拠点】

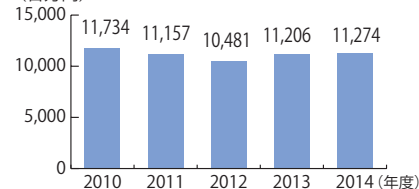
浅間工場、千曲技術センター

### 【グループ会社】

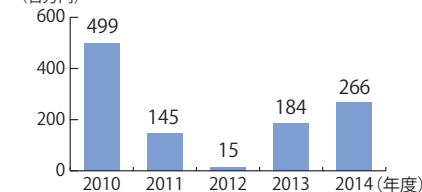
双信パワーテック株式会社  
双信デバイス株式会社  
立信電子株式会社  
双信エレクトロニクスマレーシア  
双信エレクトロニクス・オブ・アメリカ  
双信エレクトロニクスヨーロッパ  
双信華科技（深圳）有限公司  
台湾双信電機股份有限公司

## ■財務ハイライト

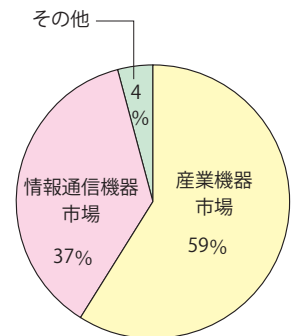
### ■売上高 (百万円)



### ■営業利益 (百万円)



### ■市場別売上高比率 (2014年度)



# 事業領域と関連製品

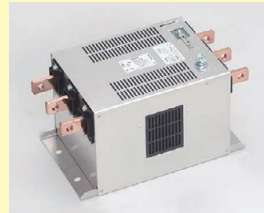
双信電機グループは産業機器市場と情報通信機器市場で時代のニーズとお客様の期待に応える電子部品を提供しています。

## 産業機器市場

### ・ノイズ関連市場

電子機器から発生する電磁波ノイズは機器の誤動作や人体への悪影響を招くことがあり、このノイズを抑制・遮断するノイズ対策製品の需要が高まっています。

当社のノイズ対策製品は電子機器の省エネ装置として普及しているインバーターに広く使われており、太陽光・風力発電などの再生可能エネルギー分野にも用途を広げています。また、大型電波暗室やオンサイト（出張）による測定・診断など、トータルサポートでお客様のニーズにお応えしています。



太陽光発電用ノイズフィルタ



ノイズ対策用リアクトルコア

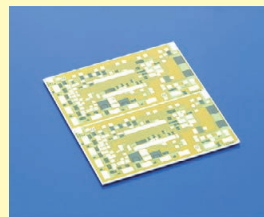


ノイズ測定診断車

### ・カーエレクトロニクス、鉄道

高い信頼性が要求される自動車をはじめ、普及が進むプラグインハイブリッドカー（PHEV）や電気自動車（EV）用の急速充電機器などで厚膜印刷基板、ノイズフィルタ、コンデンサなどが使用されています。

また、鉄道車両や鉄道運行管理システムでは各種フィルタやコンデンサが安全安心を支えています。



厚膜印刷基板



フィルムコンデンサ



ノイズフィルタ

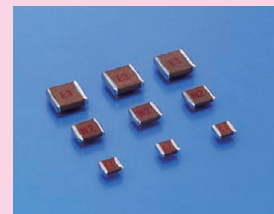
## 情報通信機器市場

### ・情報通信インフラ

カプラなどの高周波部品やフィルタ、コンデンサが携帯電話基地局などの情報通信システムを支えています。



LCフィルタ



チップマイカコンデンサ

### ・情報通信端末

進化し続けるスマートフォンやタブレット端末の無線LANやブルートゥース通信モジュール等に積層誘電体フィルタが採用されています。



カプラ



積層誘電体フィルタ

## 社長メッセージ



代表取締役社長  
上岡 崇

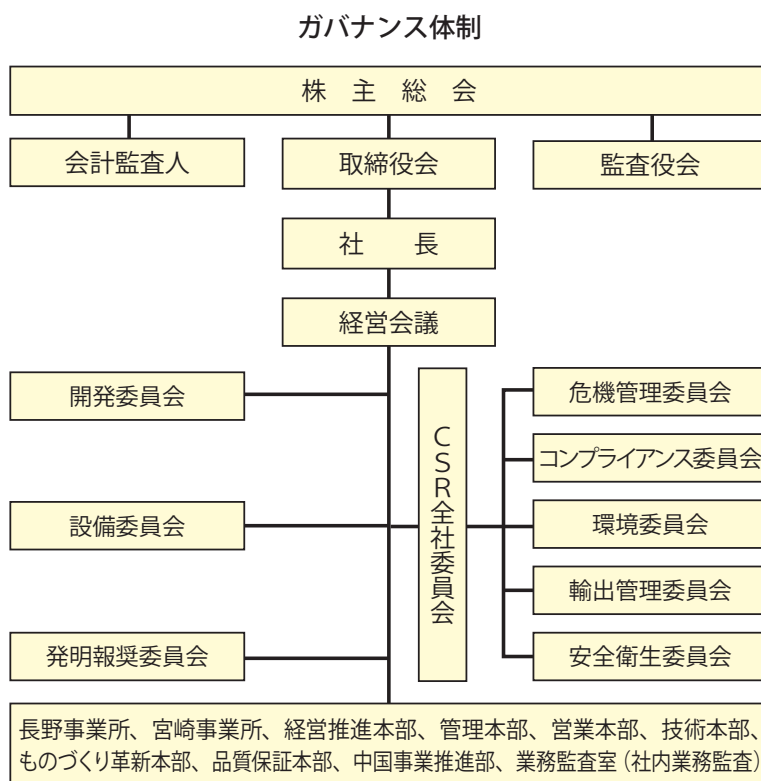
環境、エネルギーを取り巻く社会環境が大きく変化している現在、双信電機グループでは事業活動を通じた省エネ社会への貢献を重要な経営課題として位置付けております。開発、販売活動においては、太陽光や風力発電等の再生可能エネルギー分野や船舶動力の省エネルギー化、電気自動車、鉄道等の交通分野で省エネに貢献する新製品開発を一つの柱にしております。また、生産活動においては、省エネを重視した最新設備の導入、生産性の向上、VA/VE 活動等を通じて環境負荷物質の低減に努めております。さらに、社員に対しては会社と家庭での節電やノーマイカー通勤運動等の省エネ活動の啓発、教育を行っております。

今後も環境・省エネ分野での事業拡大および生産活動における環境負荷物質の削減に取組み、事業活動全体を通じて環境共生社会に貢献して参りたいと考えております。

### ◆コーポレートガバナンス

当社はコーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題のひとつとして位置付けております。

その具体的な内容は、事業活動の適法性と経営の透明性を確保し、会社に係わる全てのステークホルダー（顧客、従業員、地域社会、取引先、株主）から信頼される企業グループとなるため、経営組織体制の整備、経営効率の向上、経営監視機能の強化、法令遵守の徹底に努めることであります。





## 双信電機グループ企業行動指針

### I 企業理念の実現

#### 【1】より良い社会環境に資する商品の提供

長期のグローバルな視点に立ち、地球環境を守り社会の安全・安心を実現する商品やサービスの提供を通じて、新しい価値の創造に取り組みます。

品質と安全性の追求により、お客様と社会からの信頼を獲得します。

### II 企業活動のあり方

#### 【2】企業情報の開示

経営の透明性を高め、日本ガイシグループに対する社会の信頼を得るために、経営情報、財務情報、商品・サービスに関する情報など、広く社会が求める情報を正確かつタイムリーに発信します。

#### 【3】コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント

各国、地域の法令やルールを守り、国際間の取決めを尊重して、コンプライアンスを徹底します。

誠実で高い倫理観のある人材を育成します。また、内部統制システムの構築とリスクマネジメントの実践を通じて、会社の資産や信用、第三者の権利を守ります。

#### 【4】人間性の尊重、快適な職場環境の確保

人材の採用、処遇は公正・公平に行い、安全・快適で、家庭と両立する働きやすい職場環境を提供します。多様な人材が挑戦できる場と機会を設け、知識や技術の習得を通じて人材の成長を支援します。

職場におけるいじめ、差別、ハラスメントなど人権に反する行為の発生を防止し、違反行為があった場合には迅速に適切な対応をとります。

#### 【5】公正、自由、透明な取引の実践

対等な良きパートナーとして、取引先との共存共栄を目指し、公正、自由、透明な取引引きを行います。また、日本ガイシグループのサプライチェーン全体で、企業の社会的責任を果たす取り組みを推進します。

### III 社会の一員として

#### 【6】地球環境の保全

事業活動を行うすべての拠点、すべてのプロセスで、率先して環境負荷の低減に取り組み、地球環境の保全に貢献します。地域の環境保全活動に協力し、従業員の取り組む活動も積極的に支援していきます。

#### 【7】地域社会との協調、社会貢献活動の推進

各国、地域の社会的課題に関心をもち、地域に信頼される企業市民であることを目指して、地域のニーズに応じた社会貢献活動に積極的に取り組みます。

#### 【8】ステークホルダーとのコミュニケーション

お客さま、取引先、株主、従業員、地域社会の方々など、すべてのステークホルダーとの対話を通じて、日本ガイシグループへの理解を広げるとともに、寄せられた意見に基づいて会社の活動をレビューし、社会的責任を果たすための取り組みに活かしていきます。

# 社会性報告

## 人 間性の尊重、快適な職場環境の確保

### ◆雇用・採用に関する基本方針

双信電機グループでは事業の中長期成長を見据えた人員計画を立て、雇用の安定に努めています。新卒の計画的採用を行うと共に、社内ローテーションを積極的に展開し、必要な能力・経験を持った人材の適正配置を進め、社員の働き甲斐、働き易さを意識した活動を推進しています。

### ◆個性と多様性の尊重

障害者雇用については法定雇用率2.0%を超える2.49%（2015年4月実績）となっています。また、定年退職後の再雇用制度を導入し、フルタイム、パートタイムなど個人のセカンドライフプランに合わせた柔軟な勤務形態を用意しました。

### ◆ワークライフバランスの実現

女性社員の多くが産前産後休暇や育児休暇制度を利用し、職場復帰を果たしています。このほか、リフレッシュ休暇や計画有給取得制度を利用し、心身のリフレッシュを図れる制度を整えています。

### ◆安全衛生

双信電機グループでは、従業員の安全と健康を確保し、快適な作業環境の形成を促進すると共に、業務災害ゼロを目指して安全衛生活動を最優先に積極的に展開しています。

主な活動としては、危険要因の顕在化を目指した活動を行っており、全国労働安全週間と全国衛生週間にあわせ、ヒヤリハット活動・危険予知トレーニングを実施し、従業員からの提案に対処し大きな成果を上げています。

この他、拠点相互の設備事故未然防止相互パトロールも半期毎に実施し、安全を確実にものにしています。衛生面においては、産業医による職場巡視、産業カウンセラーによるセルフケア面談、各種教育等を継続して実施しています。また、従業員の健康増進を目的に、保健師を活用した健康管理体制も充実させ、従業員の健康維持に努めています。

このような活動により、双信電機グループにおいて、業務上重大な災害は過去5年以上発生していません。引き続き従業員の安全確保と健康維持を最優先に活動を継続していきます。

### ◆こころの健康づくり

メンタル不調とは何か、ラインケアの方法について管理職研修会を開催、一般社員へはストレスの対処方法などのセルフケア研修を開催し、メンタルヘルスに対する知識習得と意識向上を図っています。

また、産業医の他、保健師による保健指導や契約カウンセラーによるカウンセリングを受けられるよう体制を整えています。



管理職ラインケア研修



未然防止相互パトロール

## 地域社会との協調、社会貢献活動の推進

### チャリティー活動

長野地区で活動する双信バンドがチャリティーコンサートに参加しました。



### 双信電機杯バレーボール大会

宮崎地区では第29回双信電機杯バレーボール大会を開催しました。



### インターンシップの受け入れ

長野・宮崎地区において、地元の高校生が工場見学・体験をしました。



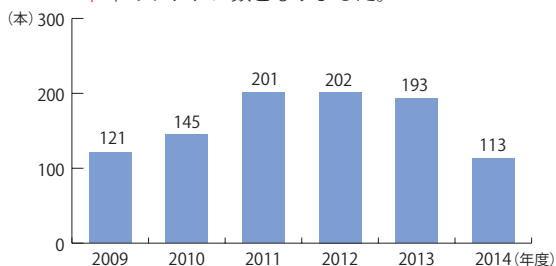
### 双信電機杯テニス大会

長野地区では第14回双信カップテニストーナメントを開催しました。



### エコキャップ運動

2008年より活動を始め、2014年度は113本のワクチン数となりました。



### 美化活動

長野・宮崎地区ともに工場周辺の清掃を行いました。



### 献血活動

長野・宮崎地区それぞれにおいて献血活動に参加しました。



### クリスマスプレゼント

双信パワーテック・双信デバイスそれぞれ近隣の保育園にクリスマスプレゼントを贈りました。



# 環境報告

## 環境マネジメントシステム

### 双信電機グループ環境方針

1. 法令・協定・顧客との取決めおよび自主基準を順守する。
2. 環境目標を設定し、組織的・継続的な環境負荷低減活動を地域社会とともに推進する。
3. 環境に配慮した製品の開発・設計・製造販売を行う。
4. 環境汚染の予防処置と監視を行う。
5. 教育・啓発活動を進め、従業員および事業に関わる人々すべての役割・責任についての自覚高揚を図る。

#### ◆環境保全活動の推進体制

環境保全に関する双信電機グループの方針・施策は、環境管理担当役員を委員長とする「環境委員会」で意思決定を行います。ここで決定した方針・施策は各サイトの副トップマネジメント（工場長、拠点長）、環境管理責任者を通じて全社に展開されます。

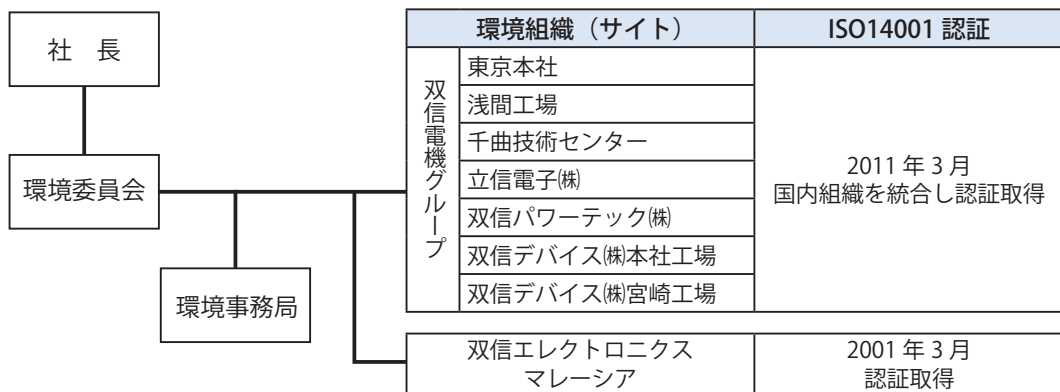
環境組織の活動として、半期ごとに開催される環境委員会のほか、環境会議、エネルギー管理会議を毎月交互に開催し、CO<sub>2</sub>排出量や産業廃棄物排出量などを把握、目標の進捗管理のほか環境に関する情報交換などを行い、環境保全活動を継続的に推進しています。

#### ◆ISO14001 認証・環境監査

双信電機グループは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を2000年に初めて浅間工場を取得し、2002年に国内全製造部門で、2011年には本社（管理部門・営業部門）を含め、国内組織を統合した認証を取得しています。（双信エレクトロニクスマレーシアは別認証機関にてISO14001を取得しています）

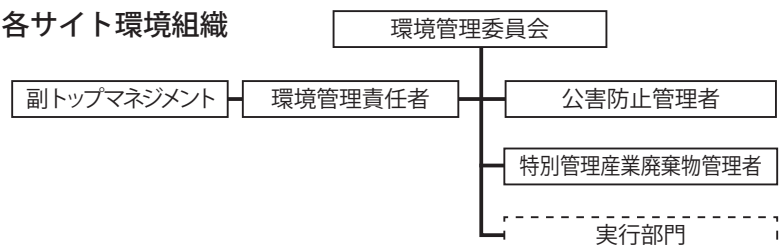
環境監査は認証機関による外部監査、環境管理室による環境査察、実行部門が行う内部監査を実施しています。（2015年3月末現在の内部監査員は175名です）

#### 環境保全組織



ISO14001 認証機関による監査

#### 各サイト環境組織



## 環境保全活動の概要

双信電機グループの環境活動は、環境目的とそれを達成するための環境目標を設定し、自主的な環境保全に努めています。

### ◆ 2014 年度活動報告および 2015 年度目標

#### 【CO<sub>2</sub> 排出量】

2014 年度の環境負荷低減活動としての CO<sub>2</sub> 排出量は目標を達成しました。

2015 年度は CO<sub>2</sub> 排出削減の取組みとして生産性向上、設備稼働ロスと負荷の低減、省エネパトロールによる無駄の排除を継続的に実施していきます。

#### 【産業廃棄物排出量】

2014 年度は工場内レイアウト変更などが前年度に完了したため、大幅に減少しました。

2015 年度は引き続きゼロエミッション（埋立ゴミゼロ）を継続しながら、計画的な廃棄物排出削減に取り組んでいきます。

#### 【含有化学物質の管理強化】

RoHS 指令、REACH 規則など環境負荷物質の制限、管理が年々厳しくなっています。

製品を構成する部材に含まれる化学物質の管理を目的に、仕入先環境品質調査を実施しグリーン調達活動を進めています。また、グループ内においては、含有化学物質管理について環境査察を実施、さらなる管理強化を図っています。

#### 【環境に関する苦情・事故の有無】

2014 年度は苦情・事故は発生していません。

今後も地域環境保全に向けた活動を継続していきます。

### ◆ 主な環境保全活動

項目	2014 年度実績			2015 年度目標
	目標	実績	自己評価	
環境マネジメントシステム (ISO14001)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育と啓蒙活動を継続します。</li> <li>環境法規制を順守します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の周知、環境目標などの環境教育を実施しました。</li> <li>環境法規制一覧表と法順守評価表を見直し、法順守評価漏れの無いようにしました。</li> <li>環境法規制の順守を継続しています。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育と啓蒙活動を継続します。</li> <li>環境マネジメントシステム2015年版への移行を準備します。</li> <li>環境法規制を順守します。</li> </ul>
地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内のCO<sub>2</sub>排出量を2013年度比7.8%増以下に抑えます。(CO<sub>2</sub>原単位排出量を2013年度比13%増以下に抑えます)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内のCO<sub>2</sub>排出量は2013年度8,002tに対し、2014年度は7,709tと3.7%減少しました。(CO<sub>2</sub>原単位排出量は2013年度比4.3%減少しました)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内のCO<sub>2</sub>排出量を2014年度比6%削減します。(CO<sub>2</sub>原単位排出量を2014年度比5.6%減にします)</li> </ul>
	<b>【中・長期目標】</b> ・中期目標：2015年度にCO <sub>2</sub> 排出量を2009年度比2%増以下にします。 ・長期目標：2020年度にCO <sub>2</sub> 排出量を2009年度比6%増以下にします。			
生物多様性保全 廃棄物管理活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量を2013年度比30%削減します。(ゼロエミッションを継続しています)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量は2013年度210tに対し、2014年度は159tと24.7%減少しました。(ゼロエミッションを継続しています)</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量を2014年度比2.5%削減します。(ゼロエミッションを継続します)</li> </ul>
化学物質の適正管理 および 有害化学物質の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>蛍光X線分析装置による検査を継続します。</li> <li>仕入先環境品質調査を実施し、グリーン調達を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査対象の受入部材の検査を実施し問題ないことを確認しました。</li> <li>仕入先環境品質調査を計画通り実施し、グリーン調達を推進しました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>蛍光X線分析装置による検査を継続します。</li> <li>仕入先環境品質調査を実施し、グリーン調達を推進します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全社の鉛フリー識別順守状況を継続します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境査察を実施し順守状況を確認しました。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>全社の鉛フリー識別順守の確認を継続します。</li> </ul>

# 環境報告

## 環境会計

### ◆環境会計の導入

双信電機グループは、環境保全を目的として支出した金額を投資額と費用でとらえ、それらによる効果を定量的に把握するために2001年度より環境会計を導入しています。集計にあたっては、環境省ガイドラインに準じて2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）の実績を集計しました。

### ◆環境保全対策にともなう経済効果

2014年度の経済効果は3,596万円で、地球環境保全効果が前年度比20%減、資源循環効果が前年度比33%減となり、全体としては前年度比29%減となりました。

### ◆環境保全コスト

双信電機グループにおける2014年度環境保全コストのうち、投資額では省エネ型設備の導入、機種の入替えなどを行い1,728万円投資し、前年度比28%増となりました。費用額の資源循環コストでは、前年度比22%増となりました。費用全体としては23%増となりました。

### ◆環境保全コストおよび経済効果

単位：万円

分類	主な取組み内容	投資額		費用額		経済効果	
		2013年度	2014年度	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度
公害防止コスト	公害防止のために必要な投資及び費用	0	0	234	188	-	-
地球環境保全コスト	省エネ設備導入等CO <sub>2</sub> 削減のために必要な投資及び費用	1,346	1,728	92	79	1,772	1,409
資源循環コスト	節水等資源効率利用、廃棄物の削減・リサイクル・処理・処分するために必要な投資及び費用	0	0	1,265	1,546	3,290	2,187
上・下流コスト	事業活動に伴う上流下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト	0	0	0	0	-	-
管理活動コスト	ISO14001認証取得・維持、環境教育、環境負荷の監視測定等環境保全に必要な費用及び人件費	0	0	858	724	-	-
研究開発コスト	環境負荷削減の研究開発・企画設計、環境保全に資する製品開発・研究に必要な費用及び人件費	0	0	0	0	-	-
社会活動コスト	自然保護、緑化、地域の環境支援、環境情報の公表、環境広告に必要な費用	0	0	300	857	-	-
環境損傷コスト	土壌汚染による改良、自然破壊修復等に必要な費用	0	0	0	0	-	-
合計		1,346	1,728	2,750	3,394	5,062	3,596

## 物質収支(インプット - アウトプット)

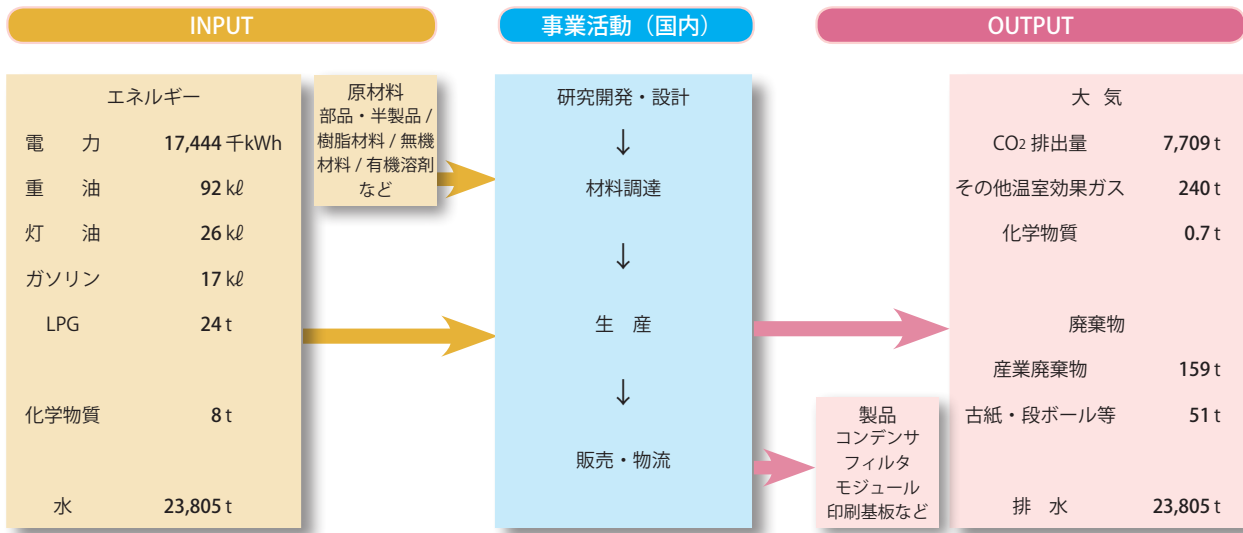
双信電機グループの国内における事業活動に関して、インプットされた資源・エネルギーと生産された製品、廃棄物およびその他の排出物を示します。

### インプット・アウトプットの概要

インプットとしては、事業活動に必要な部品、原材料、エネルギー、化学物質、水等によって構成されます。

アウトプットとしては製品、生産活動にともなうCO<sub>2</sub>排出、排水、廃棄物等があります。

双信電機グループでは製品以外のアウトプットを削減するため、省エネ改善や資源枯渇の観点からインプットを極力削減する活動を行っています。



## 含有化学物質管理

### ◆含有化学物質調査

双信電機グループでは 2006 年度に得意先様の要求による一部の製品を除き鉛フリー化を終了、その他の禁止物質も廃止し、RoHS 指令適合が完了しています。また、得意先様の製品含有化学物質調査依頼に対応するため、化学物質管理データベースを運用し、迅速に回答できる体制を整えています。

### ◆蛍光 X 線分析

禁止物質を含有する恐れのある部品、材料については社内で蛍光 X 線分析装置によるスクリーニング検査を実施し、非含有であることを確認しています。

### ◆グリーン調達

双信電機グループでは環境負荷の少ない製品の調達を進めており、2014 年 1 月に「グリーン調達ガイドライン 第 5 版」を発行し、仕入先様の積極的な取り組みとご協力をお願いしています。

このほか、仕入先様への環境品質調査を実施し、化学物質管理に問題のないことを確認しています。

# 環境報告

## 環境負荷低減の取組み

地球温暖化防止への対応として、省エネ等 CO<sub>2</sub> 排出量削減に取り組んでいます。

2014年度の国内電力消費量は省エネ型機器の導入や節電・省エネパトロールによる対策の上積みにより、前年度比3.5%減となりました。また、電力消費量を売上で割った売上高原単位は、前年度比4%減となりました。

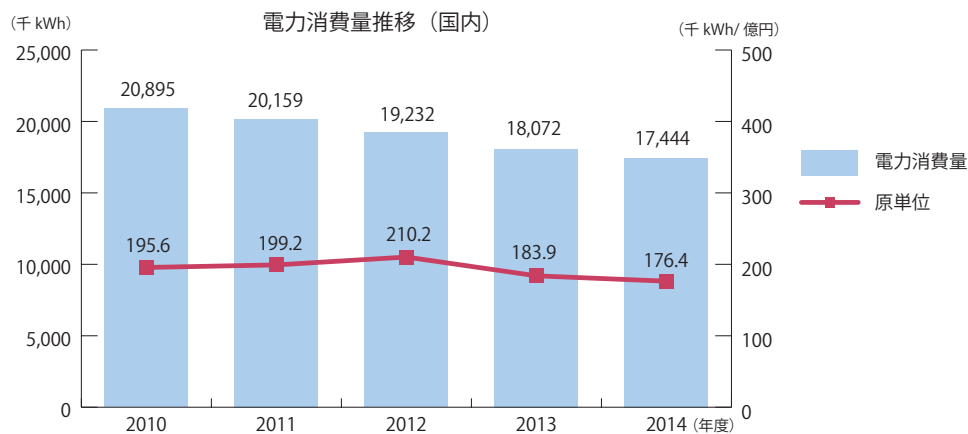
海外の電力消費量は、前年度比10.7%減、売上高原単位20.3%減となりました。

CO<sub>2</sub> 排出量はその9割以上が電力消費を起因にしてお

り、電力消費量と相関関係があります。国内 CO<sub>2</sub> 排出量は前年度比3.7%減、売上高原単位は4.3%減となり、海外は CO<sub>2</sub> 排出量が前年度比10.7%減、売上高原単位は20.2%減となりました。

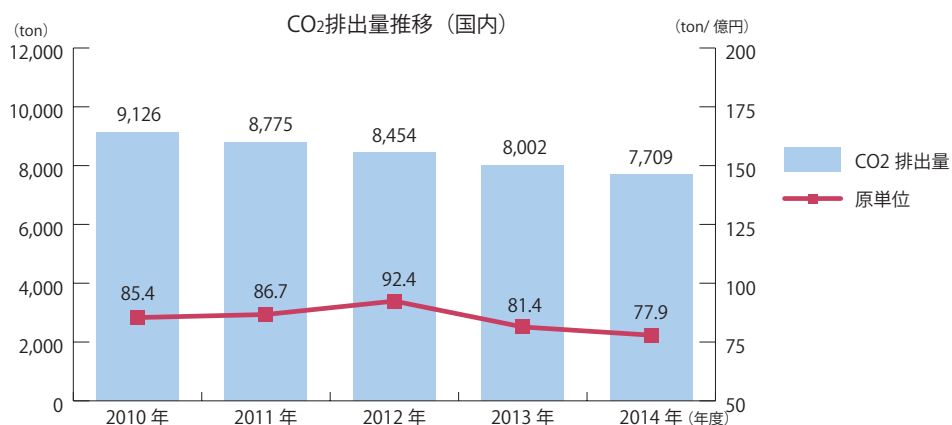
2015年度の CO<sub>2</sub> 排出量は前年度実績に対し、6%減にします。

### ◆電力消費量



電力消費量推移 (海外)	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
電力消費量 (千 kWh)	1,298	1,249	1,405	1,237	1,105
売上高原単位 (千 kWh/億円)	175.4	189.2	156.1	114.5	91.3

### ◆CO<sub>2</sub> 排出量



CO <sub>2</sub> 排出量推移 (海外)	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	552	530	595	524	468
売上高原単位 (t/億円)	74.6	80.3	66.1	48.5	38.7

## 省 エネ対策事例 ●

### (1) コンプレッサのタイマー運転機能改善による省電力化

24H稼働となっていたコンプレッサにタイマーをつけ、休日を停止するようにしました。またタッチパネルを取り付けたことにより、運転時間もフレキシブルに設定できるため、コンプレッサエアを多く使用するマシニングセンターの稼働時間に合わせた設定が容易になりました。これにより33%減の省電力化をすることができました。



### (2) 空調機の省エネ運転自動化による省電力化

テープ成型棟の空調機は、手動のため切り忘れや稼働状況に合わせた設定変更に対応できていませんでした。空調機にシーケンサー(PLC)を取付けて自動化し、切り忘れを防ぐとともに温度・湿度・リターンダンパーの制御と連動させることにより、効率的な運転が可能となりました。これにより37%減の省電力化をすることができました。



### (3) コンプレッサの設定圧力見直しによる省電力化

工程移管があり、コンプレッサの稼働状況に変化があったため、圧力ロギング装置で測定したところ圧力に余裕があることが分かりました。そのため、昼間は設定を変えず、工程が稼働しない夜間のみ圧力を下げることにしました。これにより6.9%減の省電力化をすることができました。



# 環境報告

## 資源活用の取組み

環境保全のため、循環型社会を形成することは非常に重要です。双信電機グループでは事業活動によって排出する廃棄物を資源ととらえ、リデュース・リユース・リサイクル(3R)を推進し、2007年から継続してゼロエミッション(埋立ゴミゼロ)を達成しています。

また、法に基づいた処理が適正に行われるよう行政認可を受けた業者とのみ契約を結び、マニフェスト(産業廃棄物管理票)を発行し、その処理記録を残すこと及び業者の処理現場の定期的な視察を実施して、管理しています。

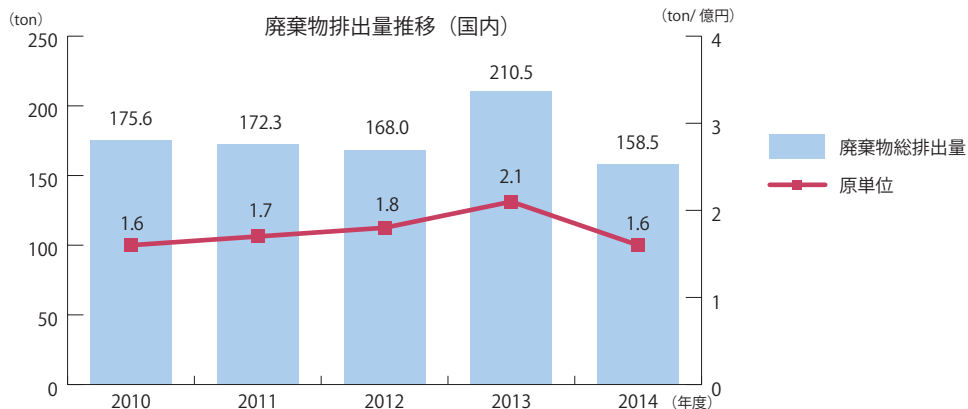
2014年度は6社7事業所の視察を行い、問題ないことを確認しています。

国内・廃棄物排出量は設備廃棄等が減少し、前年度比24.7%減となり売上高原単位も23.8%減となりました。2015年度は前年度比2.5%減を目標に排出量削減に取り組んでまいります。



産廃業者 現地視察風景

### ◆廃棄物排出量



廃棄物排出量推移 (海外)	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
廃棄物排出量 (t)	7.7	3.7	3.8	7.6	7.0
売上高原単位 (t/億円)	1.0	0.6	0.4	0.7	0.6

## TOPICS

### ◆佐久咲くひまわりシンポジウム

双信電機が加盟している「有限責任事業組合(LLP) 佐久咲くひまわり」は佐久市が行うメガソーラー事業に貢献するとともに、地域で環境保全活動や環境教育・啓発活動等に積極的に取り組んでいます。

今回、佐久の自然の恵みを考える機会として「さかなクン」を招き、第6回佐久咲くひまわりシンポジウムを開催、多くの皆さんに参加頂くことができました。

佐久咲くひまわりシンポジウムのポスター





# 2015 社会・環境レポート



**双信電機株式会社**  
**SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.**

URL : <http://www.soshin.co.jp>

〒108-8322 東京都港区三田3-13-16 三田43MTビル13F  
Tel: 03-5730-4500 Fax: 03-5730-4504

この報告書の内容に関するご意見・お問い合わせ先  
環境管理室

Tel: 0267-67-4580 Fax: 0267-68-4553  
E-mail: [environment@soshin.co.jp](mailto:environment@soshin.co.jp)



Save  
The  
E